

2011

平成 22 年 3 月 発行

社団法人 日本山岳会 千葉支部



J・A・C

(第 14 号)

千葉支部だより

発行者 篠崎仁

編集者 結城純一

第四回 栃木・茨城・千葉三支部合同懇談会に参加して



①期日:2011 年 2 月 12 日(土)～13 日(日)

②参加者数: 栃木支部 32 名 茨城支部 13 名 千葉支部 12 名 計 57 名

③開催地:日光市安川町 5-13 ホテル「春茂登」

初日に結城氏の運転する車にて船橋駅を9時に出発。同乗者は小生と銚子から参加の遠藤氏。車中の会話で遠藤氏はこの3月に京都に戻るとの由、今回、親しくなった千葉支部の皆さんとのお別れ山行とすべく参加した事を知り、参加者の少なさを幹事として恥じる。

日光に近づくにつれ小雪が舞う。市内は数センチの降雪。宿泊先のホテル「春茂登」に荷を置き、2 時に対面のホテル「千姫物語」コンベンションホールで、第一部の三支部の行事報告、記念講演会等を実施。記念講演会は日光山興雲律院住職、中川光熹氏による「日光の修験道」と題して、日光開山の歴史を知る。勝道上人により、男体山の初登頂は西暦

781 年と大変古く、最初の登頂の試みから実に 15 年間を費やした難行で、時に勝道上人 48 歳の結願。日光修験道は今も継承されて春峰、夏峰(男体禅定)船禅定、秋峰と年 4 回開催されている。



但し、夏峰のコースは現在の夏峰のコースとは異なり、その余りにも過酷な難行のため、修行中の死者が多くなり江戸時代に中止となったとの由。日本の名立たる屹立とした鋭峰は全て修験道の山伏達により初登頂をされているのかと感じた次第。当時の夏峰大修行コースを忠実に歩きたい気持ちが沸々と湧いてきた。

場所をホテル「春茂登」へ移動して、6時半から懇親会が開催、栃木支部の前支部長で名誉会員の日下田實氏の歓迎の挨拶から各三支部長のご挨拶に続き乾杯となって祝宴が始まった。栃木支部の渡邊事務局長様を始めとして、各会員の方々が参加者の皆さんの席を回り、お酌までしていただき感激しました。皆さん旧友との邂逅を懐かしんで楽しくお酒を飲み、美味な料理に時を忘れて多いに盛り上がりました。9時前にお開きとなり、幹事部屋で二次会を開催。初参加者の石原氏のアルパインスキークラブの楽しいお話等で遅くまで談笑が続きました。小生は体調を崩していたため、酒を自制してお付き合いが出来ず残念。

翌日は昨日の小雪混じりの曇り空から一変して、快晴となる。鳴虫山登山グループと世界遺産グループに分かれて、各々行動した。

「世界遺産グループ班」の小生は登山グループより遅れて、ホテル前で記念集合写真を撮り出発。ガイドを地元の世界遺産を紹介しているベテランの女性と昨日の中川先生とでご案内頂く。神橋の蛇橋の由来や対面の杉の巨木を巡る栃木地裁の勝訴判決事例など、小生には初めて知る事柄ばかりで、大変面白くお話を聞けました。紫雲石の説明を受け、日光開山の四本龍寺にお参りし、東照宮の裏門に至るこのコースは初めてであり、昨日までの雪を踏みしめて僧侶、神官の閑静な住いを巡

る。東照宮の宮司の瀟洒な自宅の前で、東照宮が神社庁から独立して運営している事の説明を受ける。天下りの官僚の統制から離脱してさぞや自由であろうと羨ましく思い、我が団体の新公益法人の行末やいかにと考える。最後に勝道上人のお墓にお参りし、中川老師と女性ガイドとお別れした。



東照宮の歴史と由来、建造物に施された数千の彫刻物の意図等を若い、と言っても30代後半かと思われる神官にガイドをお願いして巡る。神官の白装束の正装と日光下駄ではさぞや寒かろうと修行の足りない小生は思う。これがまた、実に参考になりました。見ざる、聴かざる、話さざる、の三猿の一枚の額しか見ていなかった自分の浅はかさ、眠り猫の裏側に彫られた雀の意図、陽明門の何段にも彫られた多数の彫刻の教え等、全てが当時の一流の職人を集めて、壮大な企画の下に作成した大伽藍、今で言えば、東京デズニーランドのテーマパークであったのかと目から鱗の想いがして、これを作った天海僧侶のスケールの偉大さに驚きました。陽明門の階段を登る刹那、たわわに積もった杉の葉の雪が風に煽れて無数の粉雪が舞い飛び、振り返ると、そこには一瞬の幻想的な世界が広がり、その美しさに居合わせた人達の挙げた歓声が今も耳に残っています。

栃木支部の皆さん貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

(諏訪吉春)

三支部合同鳴虫山山行

前日から関東地方に降った雪は、日光駅に近づくにつれて車窓から見える景色をますます白くさせ、何回も曇った窓ガラスを拭きながら外を見つつ駅に到着。明日はどうなることか心配していると、途中で会った茨城支部の方々が一緒に昼食に誘って下さり、今日は栃木支部の人達がラッセルしているだろう、と全然心配していない。そうか、栃木支部がついているんだと心強く感じる。

翌日起床してすぐ表を見ると、快晴で登山日和である。鳴虫山はまだ登ったことがないので行きたいと思っていた山のひとつなので、朝からうれしくなってしまう。

8時、世界遺産へ行く方々の見送りを受けて、両側に雪の積もる道を栃木、茨城、千葉の順にスタート。千葉支部からは4人が参加。

市街地を抜け含満大谷橋まで来ると大谷川は靄がたち美しく、思わず足を止めたくなる。反対側に田母沢御用邸や植物園があるが、全て雪で覆われ真っ白。

木々は昨日の雪で花が咲いたように青空に映え、何とも美しい。何度数えても数が合わないと言う「並び地蔵」(化け地蔵)を通り、日光八景のひとつ「憾満ヶ淵」を過ぎいよいよ登山口。40分ほど歩いたので1本をとり着ている物を調節しすぐ出発する。快晴の天候に周囲は積雪30cm 位で歩き易いと思っているうちに、急登が続くロープにつかまりながら高度をあげていく。10:30 になったのでそろそろ独標(925m)で

はないかと思い地図を見るとまだ先のようなのである。暫く急な箇所が続くが、普通は下りのコースであるというこのルートは、この積雪量では下より登った方が適切のようである。40 分ほどで独標を過ぎ少し下るが、やっと登ったのに。と言う声が聞こえる。ホントに山に行くと思うことがよくあるものだ。また急登を合方(がっぼう)まで登るが、振り返ると男体山がきれいな姿を見せ、赤薙山、女峰山、霧降高原のほうまで日光連山が実によく見える。ここからは 30 分ほどで、最後の急階段を登るとやっと頂上に着いた。と思うまもなく1時を過ぎているので記念撮影をしてすぐに下りるという。千葉支部は最後に歩かなければならないので、何時も時間的な余裕が無い。すぐクランポンを着け慎重に下り始める。が急がなければならない。2時30分までに日光駅前に着かないと昼食が食べられないと言う連絡があったからである。勿論皆お腹がすいているので一生懸命樹林帯の中を高度を下げるべく頑張っている。さすが JAC の会員だけあり、雪には慣れている足取りである。

日光の町並みがだんだん大きくなり、14:30 めでたく昼食に間に合い、おいしい湯葉ご膳をいただくことができた。準備段階からいろいろ気を遣っていただいた栃木支部の皆さんに御礼申し上げます。とても良い山行でした。

(坂上光恵)

忘年山行 弘法山と鶴巻温泉



期 日 2010年 12月12日(日)

参加者 井上詞子 大浦陽子 大野智子 梶田義弘 梶田天兵 金子有美子 篠崎仁
諏訪吉春 豊倉さと子 三木雄三 山口文嗣 吉永英明 米田佳代 渡辺信一

2010 年最後の山登りは弘法山と鶴巻温泉となりました。小田急線秦野駅を10時に出発して15分ぐらいすると「弘法の清水」といわれる湧水の所に着き、この水を飲むと「長生きができる」と言われ、みんなで飲んで100才までは生きられると冗談を言いながら浅間山に向かいました。浅間山からは丹沢が見えて「丹沢は約600万年前に関東山地にぶつかって誕生した山だ」と三木さんから説明されて、なるほど山ってそうやって出来るのだと分かってうれしかったです。落葉の道を歩いていたら雪景色の富士山がくっきりと見えました。富士山を見るとなぜかとてもその一日がうきうきした気分になります。次に権現山で海が見えるベン

チに座ってお弁当を広げました。目の前に相模湾、江の島、遠くかすかに大島が見え手前に箱根、富士山、丹沢とくっきり見えてお弁当も美味しく食べられました。昼食後は雑木林を歩いて行くとやぶこうじが赤く実をつけて楽しませてくれます。赤い実は千両万両とどれもみな冬の何も無い時に周りを明るくしてくれるので良いなと思います。落葉の山道を下って行くと突然道路に出て鶴巻温泉に入って大山豆腐を食べて東京駅で今日の山はお天気に恵まれ、素晴らしい景色と会友に入ってもらえそうな若い女性が参加してくれ良かったと、とても気分の良い打ち上げになりました。

(大浦陽子)

タイガー・ヒルからヒマラヤ展望 長年の夢実現

50 余年前、学生山岳部現役時代に読んだエベレストなど戦前のヒマラヤ遠征記は殆どがダー
ジリンから出発し、タイガー・ヒルからカンチェンジュンガを仰ぎ見て感動した様子を書いていた。
2003年カラコルムに出かけた際、同行仲間に「ダージリンのタイガー・ヒルからカンチェンジュンガ
を遠望したい」と私の長年の夢を語ったところ、一人から「是非、同行したいので、社長業を退くま
で待つて欲しい」と待ったがかかった。スキー合宿でご本人から「今季限りで引退する」と表明あり。
日本山岳会仲間にも声を掛け、2010 年 11 月 17 日から 15 日間、インド・ヒマラヤに出かけた。仲
間の5人も一度は行ってみたいと 50 余年思い続けていた同世代の山岳部 OB 達だ。

2 日目：デリーで一泊後、国内線でバドグラまで1時間半ほど飛び、車でクルセオンまで移動した。
国内線の機窓から昨日同様ヒマラヤの峰々を間近に見ることができ、幸先の良い旅が始まった。
車がインド平原からヒマラヤに連なる山道に差し掛かると道路の両側が全面的アッサム・ティーの
畠からダージリン・ティーの畠に変わっていった。

宿泊した古風な宿は左右が切り立った稜線上にあり、見下ろせばダージリン・ティーの畠が延々と
続いている。嬉しいことに部屋にはカンチェンジュンガ、ジャヌー、カプルー等ヒマラヤ高峰の名前
が付けられている。標高は 1485m であるが、結構冷えて電気ヒーターが有り難かった。

3 日目：午前中に茶畑を見学し、午後 3 時、世界遺産・ダージリン鉄道のトロッコに乗り込んだ。線
路巾は 61cm と極端に狭い。客車の名前は「チョモランマ」号、発車と同時に商店の軒すれすれに
動きだした。カーブの連続、自動車道路を何度も横切り急坂にあえぐように上っていく。午後 7 時
にダージリン (2, 134m) 着。130 年以上前に英国インド政庁はこのような山奥までよくぞ鉄道を敷
いたものだ。日本の高僧・河口慧海師も 110 年以上前にこの山汽車(トロッコ)に乗ってシリグリか
らダージリン入りしたことを「チベット旅行記」に書いている。

4 日目：早起きして 4 時に車でタイガー・ヒルに向かう。急な真つ暗な山道を上り 30 分ほどで到着。
暗闇の山頂に 3 階建ての大きな建物があり、最上階まで上がった。全面が大きなガラス窓の展望
室だった。すぐに 50 人ほどの定員に達したようだ。その後、到着した人たちは 2 階に、そして 1 階
に入って行った。

部屋の外は強風が吹き荒れている。まだまだ夜明けには早い建物周辺がガヤガヤと騒がしくな
ったので建物の外を見ると、ご来光見物に来ていた何百人もの人達が毛布を体に巻きつけ、強風
の中、震えながら日の出を待っている。まるで 50 余年前に読んだ、戦前の遠征隊の記事そのもの
だった。

5 時半頃に夜が白んできた。インド人たちはご来光を見るため東側の窓にしがみつき、6 時に大き
な太陽が遙か遠く雲海の上から登り始めると彼らは興奮気味にシャッターを切った。私達はカンチ
ェンジュンガが輝き始めると北側の窓に寄り集まり、窓ガラスも開けた。寒風が吹き込んできたが誰
も文句を言わない。

カンチェンジュンガ (8598m 世界第 3 の高峰) がなんの隔でもなく眼前で灰色から白一色そしてピ
ンクに輝き、太陽が頂上から麓に広がる氷河や雪原を照らし始めると我々の興奮は絶頂に達した。
太陽光線の角度でカンチの姿が変容していく様子に魅入っているといつの間にか展望室内には
我々だけが残っていた。

カンチェンジュンガの左手前にカブルー(7,353m)山群が大きく見えている。今年夏に入手した The Alpine Journal 2009 に 10 ページを割いて 1883 年から 120 余年間、物議をかもししてきた初登頂疑惑論争が書かれている。コピーを持参して、山座同定をしながら同じようなピークが並ぶ山塊に興味深く眺めることもできた。興奮と感動に後ろ髪を惹かれる思いで感激の展望室を後にした。宿のレストランからもカンチがパッチリ見え、興奮の内に朝食を取った。難民を手助けするチベット・センター、テンジン・ロックと名付けた岩場で岩登り講習会を実施中のヒマラヤ登山学校、ヒマラヤ博物館、ヒマラヤ動物園を見学。

5 日目:1 時間ほどのドライブでマネバンジャンに着いた。ここはネパールとの国境線上にある街だ。ネパールへの入国を申請し、小型バスから 2 台のランド・ローバーに分乗してサンダクプに向かった。英国統治時代に敷かれた巾 3m 程の石畳の道は 100 年後の現在も殆んど健在、側溝と水はけに考慮されているのが良く分かる。シンガリラ尾根上を走る道路はインド・ネパールの国境線上にあり兵舎も点在している。道路は小さなコブを左に巻けばネパール、右に廻ればインドと陸地に国境線のある国の大変さを再認識した。

とに角、ランド・ローバーにしがみついて延々 31km、8 時間余でガスの立ち込めるシンガリラ尾根上の展望台サンダクプ(3,636m)に到着した。

山小屋に荷物を預け入れ外に出た。日没と共にガスも途切れだし、満月が登り、星も頭上に輝き始めた。寒い小屋に入る気がしない。ガスが薄れてカンチの麓まで見えてきたが頂上部分は見えない。

夕食後、再び防寒服に身を固め、シンガリラ尾根上を散歩に出かけた。満月の明かりでヘッドライトは無用になっていたがカンチは薄いガスの中だった。

エージェントから「山小屋が満室の場合はテント泊」と言われていた。テント泊用に持参してくれたシュラフに入り、毛布を掛け、彼らの心づくしの湯たんぽを入れて一夜を迎えた。山小屋は全てベッド付の個室、室内には綺麗なトイレもある。快適な一夜だった。

6 日目:5 時半に小屋を出て、200m 程石畳の道を歩き、凍りついた急な小路からピークに登った。夜が白みだした。下から吹き上げてくる風は冷たいが、この 360 度見渡せる最高のポイントから下る気にはならない。午前 6 時にご来光が始まった。東北にブータン・ヒマラヤの山並み、目前はカブルー、カンチェンジュンガ山塊、ジャヌー、その左にスリー・シスターズなどが続き、大きなエベレスト、ローツエの 8,000m 峰は頂上付近のみガスがあり鮮明ではない。ヌプツエ、バルンツエ、チョー・オユーそしてチベットの山並みの最後に 04 年に登頂したシシャパンマが鮮明に見えていた。そしてその左に大きな山塊が 2 つあった。ガネッシュ・ランタン群とマナスル三山であろう。同行したワイフも 36 年振りにエベレストを拝することができ嬉しそうだった。

何時まで見ても飽きないが朝食の為、小屋に戻った。朝食後、直ちにシンガリラ尾根のトレッキングに出発した。あまりの豪快な光景に見惚れて立ち止まりシャターを切り、50m も歩けばヒマラヤの連峰を眺めて立ち止まり、足が進まない。1 時間ばかりだがトレッキングを満喫した。

50 余年来の念願だったタイガー・ヒルからのご来光の景観に心底感激したが、サンダクプからの感激はその何倍も強烈なものだった。

インドでは「サンダクプでご来光を見るために起きなければ、その旅は完結しないだろう」と言われていると聞いていたが、なるほどその通りだと納得した。その後、チベット仏教文化圏と言われるシッキムを訪問し、一旦デリーに戻って世界遺産のトロッコ列車で英領インド政庁時代の夏期避暑地シムラを訪ね、ザ・グレイト・ヒマラヤの展望も楽しみ帰途についた。

(南井英弘)

赤井監事を偲んで

赤井監事は1年半以上の闘病と最先端治療の甲斐もなく食道ガンで平成22年12月28日74才の生涯を閉じられました。赤井先輩のルーツは富山市郊外日本海に近いところです。町内には赤井姓が多く職業は大工が多かったと聞いております。赤井先輩も疎開先の富山で小学5年生の夏休みに林間学校で立山温泉に行ったのが山に魅せられた発端と思います。父が鹿島建設水戸支店に転勤になり、先輩も水戸一高から日大文理学部に進学されました。勤めは鹿島建設本社でご子息も鹿島と親子三代鹿島建設とまさに鹿島一家として恵まれた環境でした。

私が日大山岳部に入部した昭和33年4月には3年部員として活躍しておりました。学生時代から律儀な先輩で厳しい一面もありましたが、後輩が一生懸命努力しても及ばなければ陰になって励ましてくれるやさしい先輩でもありました。学生時代の登攀で一番の思い出は昭和35年春山合宿で本剣にアタックキャンプを出し、赤井リーダーのもと源次郎尾根を登ったことです。雪の落ち着く夜中2時にテントを出て月光の中、長次郎谷を尻制動であっという間に取り付き、早々に本剣に戻ったのを思い出します。

昨夏、JAC千葉支部幕張での納涼パーティのメールでは主治医の許可をもらって一杯飲もうという返事でしたが、それは叶いませんでした。

先輩、もうドクターストップは気にしないで天国の山仲間と思う存分飲んで下さい。ご冥福を祈ります。合掌。
(高橋正彦)

安房高山(364.9m)山行のお誘い



4月の支部山行は房総分水嶺上の二等三角点峰、安房高山を目指します。頂上からは長狭平野と房総第1の高峰嶺丘愛宕山や太平洋が望めます。帰路は関東ふれあいの道から大戸場滝を通り、清和県民の森へ下山します。

期 日 2011年4月23日(土)

参加申込 参加希望者は4月9日(土)までに下記担当者に申し込んで下さい。

詳細をご連絡いたします。

担 当 : 岩尾富士夫

千葉支部総会記念山行／笠森グリーンルート



笠森グリーンルートは「関東ふれあいの道（首都圏自然歩道）」の一部で「観音様のみち」ともよばれ、笠森観音から南へユートピア笠森に至る約 11Km の道のりです。コースの一部は房総半島の分水嶺にもなっています。平成 21 年 10 月 11 日に実施した一般参加の第 1 回目分水嶺踏査「六地藏～笠森観音」コースの続きになります。
千葉支部総会の前日に軽く汗を流して支部総会に臨みましょう。

期 日	2011 年 5 月 21 日（土）
参 加	自由参加としますが、おおよその人数把握と悪天の場合の緊急中止連絡等のため、ご参加希望の方は 5 月 15 日（日）までに下記担当までご連絡下さい。
集 合	JR 外房線茂原駅 9 時 15 分 千葉駅発 8 時 18 分安房鴨川行き → 茂原着 8 時 56 分 千葉駅発 8 時 33 分茂原行き → 茂原着 9 時 13 分 茂原駅南口発 9 時 30 分の牛久駅行きバスに乗車予定です。
予定コース	茂原＝笠森－笠森観音－ユートピア笠森－平田バス停＝茂原
徒歩時間	約 3 時間 30 分
担 当	山口 文嗣

雨天の場合は中止します（当日朝の天気予報で千葉県の降水確率が 50% 以上の場合）

2011年通常総会開催のお知らせ

下記の通り、第四回通常総会を開催します。この総会は2010年度決算、2011年度事業計画及び収支予算などを審議いただく重要な総会です。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予約をお願いします。総会終了後、講演会並びに懇親会を予定しております。また、記念山行は今回は総会の前日（5月21日）に企画しております。

日時：2011年5月22日（日）

総会と講演会 13:30～15:00 懇親会 15:10～17:00

場所：京葉銀行文化プラザ （楓）

信玄の砦あと「岩殿山」山行のお誘い



中央線大月駅ホームの目の前に聳える岩山は、かつて要害堅固を誇った武田氏の砦があった場所です。昭和30年代までこの岩壁は岩登りの練習場所としても利用されていました。梅雨入り前にちょっと遠出して一日の散策を楽しみませんか。

期 日 2011年6月11日（土）

参加申込 参加希望者は6月4日（土）までに下記担当者に申し込んで下さい。

詳細をご連絡いたします。

担 当： 三木 雄三

千葉支部設立五周年記念小笠原自然観察会

支部設立五周年事業として小笠原諸島へ出かけることにしました。世界自然遺産に指定されると混雑が予想されるので、今年がチャンスです。岐阜大学の西條好迪先生が、千葉支部のためにインタプリターをお引き受けくださいました。

幹事 豊倉さと子、篠崎 仁

期日 : 2011 年 7 月 19 日 (火) ~ 24 日 (日) (但し、帰りの便が悪天候により出港できないことがあるので、予備日が必要です。)

場所 : 小笠原諸島父島、母島

申込締切: 4 月 20 日、ただし先着 15 名まで。

申込先 : 豊倉さと子

費用 : 東京ー父島往復船賃約 53,000 円、父島ー母島往復船賃約 10,000 円、
宿泊代 3 泊ほか 合計約 9 万 5 千円 ~ 10 万円

日程 : 7 月 19 日 (火) 東京港竹芝桟橋発 10:00

7 月 20 日 (水) 父島着 11:30 父島自然観察 父島泊

7 月 21 日 (木) 父島自然観察 父島泊

7 月 22 日 (金) 母島自然観察 父島泊

7 月 23 日 (土) 父島自然観察 (午前中)

父島発 14:00

7 月 24 日 (日) 東京着 15:30

(日程内容は変更の可能性があります。費用ほか詳細は参加者に別途連絡します。)

★小笠原は、東京から南に約 1,000km 離れた太平洋上に位置し、大小 30 余の島々から構成され、島の誕生以来、一度も大陸と陸続きになったことのない海洋島です。そのため、生物は独自の進化を遂げた固有の種が多く、通常の構成種の一部を欠く特異な島嶼生態系を形成しており、国内のみならず世界的にみても希少かつ固有な自然環境を有しています。このため、小笠原諸島は昭和 47 年に国立公園に指定されるとともに、平成 19 年に国有林のほぼ全域が森林生態系保護地域に指定されました。さらに世界自然遺産推薦地となっています。

さらにくわしい小笠原諸島の情報については、下記「小笠原自然情報センター」のHPで知ることができます。

<http://ogasawara-info.jp/index.html>

● 編集後記

3 月 11 日東北地方を大きな地震が襲った 津波で家や車が呑み込まれていくのを見て、あまりに激甚な被害に言葉ありません。一昨年の夏に家族で遊びに行った町が消えてしまい 自然の恐ろしさを感じました 一日でも早く前のような美しい海と町が戻る事を切に祈ります。被災された皆様にお見舞いと、亡くなられた方々のお悔やみを申し上げます。
(結城純一)